資料３

地区復興まちづくり便りへの意見等

※○番号は今までまちづくり便り等へきた意見の再掲

１．検討会で出ていなかった意見・別の視点の意見

■移転について

①	1近い将来完成する三陸沿岸道路とR45号線沿いにタテに走る線を基準に集落を2～3ヵ所に分担すべき。それぞれに公共施設建設（警察、病院、消防署、学校、幼稚園、保育所等） ・田老町内の高台（2～3箇所） ・グリーンピア三陸みやこ、沿線の向新田（インターチェンジ予定地） ・あと1箇所（余裕を持って） 2グリーンピア三陸みやこの移転先は向新田が良い。 ・向新田は大きな凹凸の山が少なく、R45 号と三陸沿岸道路が走り通勤、通学、病院等に短時間で行く利便性を持っており、自然にも恵まれた地区 ・三陸鉄道を造る時の5～6m幅の道路もあり、国道沿いには水道管も完備され、電気線、電柱も多い　（60歳代　男性）
②	子孫が安心して住めるよう、高台で全てがそろうようなニュータウンが望ましい。住民の高齢化が予想されるので、バリアフリーで、津波記念館等の観光客を呼べる施設もほしい。 （50歳代　女性）
③	現仮設住宅地のグリーンピア用地、樫内地区用地等は使用し、必ずしも一箇所にまとめる必要はないと思います。　（70歳代　男性）
④	高台移転を考えるなら、大団地とすべきである。例えば、500世帯以上として2団地とすべきである。団地の候補地としては、南部（樫内古田地区）と北部（新田地区）が好ましい。双方に市の支所を配置する。旧地区別の移転先に当たっては、自由に住まいを選択させるべきである。　（60歳代　男性）
⑤	バス停「真崎入口」と「新田平」の中間地点で国道45号線の東側を整備すれば相当数の住宅を建てる事が可能と思っております。田老からも近いし是非検討してみて下さい。 新里、川井この地は津波に対して絶対に安全な所であり住宅地として考えに入れて良いと思います。　（70歳代　男性）
⑥	基本的に田老地区の団地は2か所とし、なるべく分散型にしない。 まず南部団地は樫内古田とし、田老地区のそう世帯の3割程度が入居する。北部団地は青野滝久木とし、7割程度が暮らせる規模の団地とする。　（60歳代　男性）
７	大平地区の通称「アイノ山」への約100世帯の移転を希望する。　（大平地区意見）
８	震災前のコミュニティの維持・継続等を求める観点から「大平1行政区」の高台等に再び住まいを希望する被災者世帯のために「アイノ山」も住宅の高台移転先として是非、移転候補地に含めてもらいたい。 「アイノ山」の一部の被災山林地主は、高台への移転先として「アイノ山」を考えている。 （大平地区意見）
９	住まいについては、今回の津波浸水区域外で震災以前に住んでいた所の背後地や高台に住宅が集積するようにして、コミュニティの再構築を後押しをしながら、旧市街地を中心にした、新たな街を形成することにより、居住地の分散化を阻止してもらいたい。　（大平地区意見）

10	被災者世帯がどこの場所に住まいを求めるかについての選択に制限を設けないよう市に働きかけて頂きたい。（大平地区意見）
11	被災者世帯を対象にした今後の住まいについてのニーズ調査を行うよう検討会でも市に対して働きかけを検討して頂きたい。（大平地区意見）
12	宮古に近い高台への移転を希望します。病院やお店、公共機関に近い所　（アンケート）
13	高台移転の際は各戸面積制限してほしい。もっと移転先はあるはず。（勉強会）
14	末前地区、古田地区は居住地が分散されるので移転先としては必ずしも適地とはならないと思われる。（60歳代　男性）

■現地再建

1	自分たちだけであれば元の場所は考えられないが、子供の仕事を考えると元の場所だ。（アンケート）
2	ガレキもコンクリートも埋め立てに使って、山を切って、平らにして、土地を嵩上げして住む。（アンケート）

■防潮堤について

①	徹底的に高くて大きな防潮堤建設(私は青砂里方面からと野中方面から伸びてくる高さ30m程の長々とした山を築き、できれば山はその地主の所有とすれば建設工事費が節減できると思います。）大津波も完全に阻止することです。(田野畑の北山断崖のように) 田代川、神田川、田ノ沢川、荒谷沢川、長内川、の入口に海抜１０Ｍ程の防潮堤を築き、絶対安全住宅地の建設、田老港を取巻く高台住宅の建設。勿論現在の防潮堤は大切に残すこと。（70歳代　男性）
②	津波を川に流すというのは危険。津波は川をあがっていくのに被害が拡大するだけ。ましてや、今の北高の周囲に学校を建てると川をあがっていった津波の犠牲になるのは子供達です。（20歳代　女性）
3	防波堤の構造については、内部もコンクリートで固め、基底部分はこれまでより拡幅して、なお、津波の射流や洗掘に対する強度を高める。（大平地区意見）
4	海側防波堤を越える津波の一部を田代川流域と長内川流域に分散させるため、両河川の水門と今後、復旧及び嵩上げする海側防波堤に高低差をつける。 また、津波エネルギーの分散先である田代川及び長内川の堤防の川側法面は、コンクリートの擁壁で固め、今回の津波による両河川の浸水高に対応できる高さにして、住宅地等への侵入を防ぐ構造にする。（大平地区意見）
5	防波堤には従来のとおり、門扉を設置し、防波堤内部に留まった海水等を速やかに海側に排水し、人的被害の拡大を防ぐようにする。（大平地区意見）
6	大平地区を通る国道45号線にも防波堤としての機能をもたせ、45号線以西の大平地域住宅地への津波侵入を防ぐ。（大平地区意見）
7	防潮堤の門は、海側から速やかに高台等に避難するためには不可欠なものであるから必ず設置すべきである。（60歳代　男性）

■防災について

1	ハード面については、防波堤の復旧・嵩上げに加えて、国道や鉄道にも防浪機能を新たに持たせ、今回以上の規模の津波対策としては、市が示したモデルの内の「分散型」と「回避型」をミックスした複合防災システムの構築が最良と思われる。（大平地区意見）

■浸水した地区の活用

①	防潮堤が14.7mの高さとなれば住宅、商店は元の（国道沿い）ように教育、医療、公共施設は高台へ。（移転先は宮古北高等学校周辺）（70歳代　男性）
②	田老港を前面に眺める事ができる旧田老役場、常運寺あるいは小中学校等は田老地区の中心地としての役割を担わせたとえ周辺に住宅が少なくても良いのではないかと思います。（70歳代　男性）
③	港の市場周辺は人工嵩上盛土とし、その上に加工場等の施設を建て、津波などの非難は青砂里、乙部の高台に逃げやすくする。野中地区に住んでいた住民の方々は大平、兄形、八幡水神方面へ移住。野原地区住民は乙部盛土地区へ移住。旧防潮堤内の住民は盛土した一中校庭に移住。一中の生徒は宮古北高校を兼用使用する。たろう観光ホテルは残し、メモリアル的役割で観光施設とする。（50歳代　男性）

■防災意識・教育について

①	ハード面においては、「復旧」にとどめるべきだと思う。ハード面に莫大な予算を投じるよりも、むしろソフト面に全勢力を注ぐべき。（30歳代　女性）
②	堤防建設には波を防ぐためにつくるのではなく、「いなす」ことに重点を置くべきと思います。まちつくり＝ハード面だけと認識することは大きな誤解を生むと思います。（40歳代　男性）

■道路について

①	国道は今の形状を維持し商店街の復興を支援する。（50歳代　男性）
2	二線堤内を堤防の高さまで埋め立て、堤防を国道45号線とすることはできないか。（アンケート）
3	新たに建設する避難道を含め、旧市街地の道路はすべて、歩道や自転車専用道路が整備された片側完全一車線とする。（60歳代　男性）
4	国道は速やかな人命救助及び災害支援・復旧に重要な役割を果たすものであり、津波浸水の及ばないルートに変更する必要がある。具体的には現在、市街地の南北に縦断しているものを、西側の山沿いに近いルートに変更し、高架とする。今回の赤沼山における浸水高以上の高さにする。（大平地区意見）
5	市道は徒歩及び自動車による避難者が混在して避難することを前提として、避難場所までの最短ルートを確保すると共に避難道路は全て2車線にする。（大平地区意見）
6	国道は速やかな人命救助及び災害支援・復旧に重要な役割を果たすものであり、津波浸水の及ばないルートに変更する必要がある。具体的には現在、市街地の南北に縦断しているものを、西側の山沿いに近いルートに変更し、高架とする。今回の赤沼山における浸水高以上の高さにする。（大平地区意見）

■鉄道について

①	三陸鉄道のシステムをこの期に改良してみてはどうでしょう。　（30歳代　男性）
2	鉄道と三陸北縦貫道とのアクセスを図るため、直通の連絡通道で繋ぐ。駅は、地域住民、観光客、通勤客・通学生の憩いの場として利用できる開放施設にする。　（60歳代　男性）

■施設について

①	北高校周辺を文教地区として小中学校の集約をするのには反対。川が近くにあり、津波だけでなく大雨などで川が氾濫する可能性もある。子供達の命を守るためにも高台につくるべき。（20歳代　女性）
②	今回、津波を見た子供達は二度と津波は見たくないはず。教育施設はもっと高台につくってほしい（例えば新田のあたり）　（20歳代　女性）
3	公民館→　図書館、保育所、児童館、診療所と共にひとつの建物に集積する。 現在の公民館体育室の敷地を現在より１m嵩上げして、その上に鉄筋コンクリートのビルを建て、一階部分は駐車場とする。　（大平地区意見）
4	消防署（消防団）→　長内地区、ケラス地区及び大平地区の浸水区域外の適地に移設する。（大平地区意見）
5	観光宿泊施設→　旧三王閣周辺から真崎、小港、青の滝、明神崎、グリーンピア三陸みやこへと連なる観光ルートを新たに建設し太平洋を眼下に見下ろす適所に宿泊施設を配置する。（大平地区意見）
6	漁業施設→　魚市場以外の浜の屋及び乾燥場は陸側防波堤の内側に集積する。漁期を終えた漁船は、津波浸水区域外に保管する。　（大平地区意見）
7	エネルギー施設→　山を切り崩して住宅地を造成すると共に、なだらかな山の斜面を利用した太陽光発電や山の尾根に風力発電施設を建設し、非常時の停電にも対応できるシステムを構築しておくこと。　（大平地区意見）
8	田老一小は現在の場所とする。　（大平地区意見）
9	田老一中は現在の場所とする。但し、校庭は、体育館の敷地の高さまで嵩上げをし、かつ、校舎やグランドの周辺には嵩上げ後の地面から１、５mのコンクリート製の塀を巡らせる。教室や職員室は2階にする。　（大平地区意見）
10	小・中学校は津波対策を取りつつ可能な限り現在の位置とする。　（60歳代　男性）

■移転跡地の買い上げについて

①	非可住地の野中及び野原の土地買い上げについて一日も早く実施してもらいたい（70歳代　男性）
2	宅地は等価交換を基本とする。住宅跡地は市が買い上げ、同じ坪単価で移転先の土地の購入ができるようにしてもらいたい。なお、不動産取得税の減免措置を講じるなど宅地取得者に新たな負担が発生しないようにしてもらいたい。　（大平地区意見）
3	取得できる宅地面積に上限を設けることに異存は無いが、被災者世帯が取得する宅地面積より市が買い上げる住宅跡地の面積が広くなった場合には、その差額は宅地取得者に戻すこと。また、住宅跡地の面積より、取得する面積が広くなった場合には、その差額は宅地取得者の負担とする。　（大平地区意見）

4	津波の浸水した土地を高く買い上げてもらうか、代替の土地を準備してもらえれば助かります。（アンケート）

■住宅建設、購入、入居への支援

1	被災者世帯が持ち家を購入したり、新築したりする場合は、市独自の支援策（税制や支援金等）を講じてもらいたい。（大平地区意見）
2	震災前の住宅が借家であった被災者世帯が、新たに高台に住宅を取得して新築移転を希望した場合や田老地区以外の宮古市の被災者世帯が田老地区の高台に新築移転を希望した場合を想定した定住促進策についても検討してもらいたい。（大平地区意見）

■将来像、方針について

1	田老地区の将来における「あるべき姿」について、その全体像をイメージしながら、田老を担う子供たちが未来に希望を持てる計画を立案してもらいたい。（大平地区意見）
2	田老が分散化されないように、まちを集合して、まちづくりがなされるように。（アンケート）
3	奥尻島の教訓を活かしたい。新潟小千谷市の状況も。（当時お金をかけたことが形骸化、借金増、そして過疎。）ソフトの推進と充実を。（勉強会）

■産業・雇用について

①	後継者不足で悩むなら、漁業だけにこだわらず、みんなで新しいことにチャレンジしていけばいいと思う。田舎は田舎らしさを忘れず、都会で疲れ果てた人たちの息抜きになれる、そんな田老を目指したい。（30歳代　女性）
②	働くための職場は可能な限りそれぞれの住宅の近くに誘致し、自由競争に管理体制を導入すること。（70歳代　男性）
3	被災した事業者の多くは、土地以外の資金の全てを失い、売掛金が回収不能の中、仕入れ・買掛金の支払い義務を果たし、震災時に比べマイナスの財政状態にある。それを、ゼロスタートラインに引き上げる努力が求められており、行政サイドから新たな支援制度の設計を検討願いたい。（大平地区意見）
4	それぞれの産業に携わる被災した経営者が田老地区の復興に何を思い、検討会や市に何を望み、自らは何をしようとしているのかを聴く機会をつくってもらいたい。 各産業における経営者の考え方や提言、要望が反映されない産業振興策は将来に開けないと思われる。（大平地区意見）
5	産業を再建するには、産業分野ごとにマーケティングやシミュレーションを行う中で、企業立地の選定、商品や原材料の仕入れや販路の再構築などが不可欠である。その意味からも新しい「まちづくりの全体像」の公表が急がれる。（大平地区意見）
6	産業復旧に必要不可欠なライフライン等の基盤整備が進む中、壊滅的な被害を蒙った地域産業の復興は、今後における幹線道路の整備計画やまちづくり推進計画とも密接な関係がある。（大平地区意見）
7	・港を早く整備してもらいたい。今までの所でよい。地震の時は、逃げればよい。（アンケート）
8	・若者の働く場を確保すれば、若者も定着すると思う。（アンケート）
9	まずは雇用、雇用がなければ高台も何も考えられない。（勉強会）

10	水産業、加工や養殖からまちづくりをしていくべきだ。そして農への転換も。（勉強会）
11	漁業を、加工そして観光、インターネット活用で復興し、産業構造づくりを。（勉強会）
12	グリーンピア敷地内に高齢者を集め雇用を生む。（勉強会）

■住宅の所有形態について

1	持ち家が望ましい（大平地区意見）

■避難場所について

1	今回の大津波における田老地区住民の避難行動を参考にしながら海岸から比較的近い高台や浸水区域外の高台とし、加えて移転先の高台住宅地も避難場所に含める。 津波避難場所の機能も有する5階以上の堅固な建物を新たに建造する。 自動車で避難する人がいることを前提に、駐車スペースのある避難場所には、駐車場を確保し、交通渋滞の発生と非難の遅れを最小限に抑える。 季節や昼夜に拘わらず避難が出来るようにするためには避難場所の舗装や照明設備を整えること。（大平地区意見）
2	学校、保育所、児童館、診療所等の各公共施設の内、津波浸水区域外に設置する施設、または津波を回避する高さの構造物内の施設のうち適当と思われる施設には、全て避難所としての機能を持たせ、必要な物資等を常時保管して置く。（大平地区意見）

■避難方法

1	学校、児童館、保育所、診療所、老人福祉施設及び企業、事業所等には、それぞれ津波避難についてのマニュアルを作成し、定期的な避難訓練を義務付けると共に地震発生時には保護者等が児童、生徒の迎えに行くことを規制する定めを設定し、その周知徹底を図る。（大平地区意見）
2	従来の徒歩避難に加え、自動車による避難を前提にその方法について検討する。（大平地区意見）
3	在宅の避難弱者の避難については、消防団や防災自治組織そして在宅の避難弱者の居る世帯を含めた協議の場を設け、避難方法について検討する。（大平地区意見）
4	今回の震災・大津波からの教訓を客観的に整理して、従来の前例主義等の行政概念に捉われない、被災者の立場に立った新たな発想で防災施策を検討してもらいたい。（大平地区意見）
5	津波浸水危険区域外については、主として信号機や交通指導員及び防災自主組織を活用する。 区域内については、自らの安全を確保しながら警察官、消防団員が当たる。 検討会及び市には関係機関との連絡交渉を行ってもらいたい。（大平地区意見）

■震災発生時の交通規制

1	津波注意報・警報の発令と同時に、走行中の車両には、信号機（注意報・警報の発令表示及びサイレンの吸鳴並びに赤色点灯）により、運転手に津波浸水危険区域への進入禁止を伝える。 津波注意報等の発令時に既に津波浸水危険区域に侵入している車両には、上記の方法で警報を伝えると共に、信号（青色灯→）で、信号機のある各交差点から、一斉に山側の避難場所への速やかな移動を指示する。（大平地区意見）

■地名について

1	地名の変更。新しい地名で再スタートを。	（アンケート）

■検討会の進め方・メンバーについて

①	検討会のメンバーの再編成が無理なら、とにかくメンバーの皆さんに、この検討会がどれだけ重要な役割なのかということを、再度、認識していただきたい。	（30 歳代　女性）
②	会議等住民の集会は日中とし、夜は絶対に行わないようにする。交通機関を完備させれば可能ではないだろうか。送り迎えの車（バス）は必ず用意する。	（70 歳代　男性）
③	消防関係の不備、要介護者問題。若者の雇用問題、情報発信収集に関する難題。被災住民と被災を免れた住民の重い壁というべきか深い溝問題など様々な問題も取り組みながら進めるべきと思う。	（検討会メンバー）
④	視察対応に忙しい団体、他地区の漁村復興をマネしているような独自の発想がない産業団体、これらの団体が田老では先達として先見に明るくなり復興していかないと田老はだめだと思います。これらに関与する方々も発想を転換してみたほうがいいのではないかと本当に思います。	（40 歳代　男性）

２．検討会で同じ方向で議論がなされている意見

■防潮堤について

①	防潮堤はできるかぎり高くし、水門は無くしスロープで浜への道路は確保する （50 歳代　女性）
２	防波堤の形状の改善をし、津波エネルギーの減災効果を高めるため、今度の津波で破壊された海側防波堤（中町から青砂里までの区間）の復旧にあたっては、陸側防波堤との接続部を従来の丸山理容店裏から南側に移転し、田老町漁協の「鮭の番屋」裏以南のところで接続して、防波堤を完全２重構造にする。 防波堤が２重構造になれば、海側防波堤を越えた津波は、野原地区や野中地区に侵入するが、陸側防波堤にかかる津波エネルギーは、相当部分減殺することが出来る。 ２段階の津波エネルギーの抑圧により、山側防波堤内側の街区への被害と田老地区全体への被害と田老地区全体への被害の広がりを抑えることが出来るものと考える　（大平地区意見）
３	一線堤と二線堤の交点（接続部分）を従前の位置から変更し、二線堤との接続を避け、同じ一線堤に交点を求め、二線堤とは実質的に分離して、防潮堤の二重化を実現することにより、二線堤から山側までの地域への津波浸水量を減少させる。　（60 歳代　男性）
４	防潮堤の基底部は従前より拡幅し、津波による重圧や射流及び洗掘に耐えられる構造にする。門扉は、従前より強度を高める。また、門扉の閉鎖は遠隔操作で行う。　（60 歳代　男性）

■高台移転

①	田老平坦部住宅の方々は全て高台を造成し生活する事です。そして広大な平地は仕事場として活用する事を実行し、次に襲い来るであろう大津波に対して備える事が近代の科学技術が進歩している時代に即応した考えだと思います。　（70 歳代　男性）
②	今回津波被害にあった場所に何か一つ施設をたてればまた数年後にはそこの辺りにまちができる。今のまちは捨てて、高台にまちを造ったほうがよいのではないか。　（20 歳代　女性）
３	和野地区は乙部地区、青砂里地区両地区の後背地の高台に連なる地区で、国道へのアクセスを整備すれば、高台への移転先として有望である。　（60 歳代　男性）
４	みんなと離れたくないので、集団移転を希望します。　（アンケート）
５	浜の仕事なので、浜の近くの高台を希望。　（アンケート）
６	津波・地震で逃げなくてもいい所、田老のみなさんの顔が見えるところを希望します。 （アンケート）
７	海の見える高い所に住みたい。　（勉強会）
８	安全なところがあれば人は集まる。人間には環境適応能力があるから高台へ。　（勉強会）

■検討会の進め方・メンバーについて

①	町全体の復興を地区住民みんなで考え、若い年代の意見も取り入れるべき。（40 歳代　男性）
②	①検討会は必要　②行政主導じゃなく住民も深く加担すること　③参集範囲をよく考える。 （40 歳代　男性）
③	今は第１回目ですが、これまでの懇談とは違った意見等があったとは感じません。次回からよ

	り具体性のある真新しい考え方が出され、しかも民意が反映できるような方向に進むことを期待します。尚、結論はその通り尊重してくれるまちづくりを願います。　（検討会メンバー）
④	これから、この町で生きていく人たちの事を考えてほしい。これからを担っていく若い人たちの意見をもっと聞いて欲しい。　（20歳代　女性）
⑤	残された復興まちづくりの会議が、あと2回と迫っています。大丈夫でしょうか。どの程度の意見が反映されるのか心配です。年明けでも良いので、もう少し会議の開催を増やし、市側との対等のすり合わせができるよう万全を図ってほしい。　（アンケート）

■避難所・避難場所について

①	今回の大津波で内側防潮堤内に入った海水が田老一中グランドに到達し、グランド面から計って２ｍ弱と印されていました。（汚れた海水により判明）この場所はこの地一番の安全なところと評価されているところであり、将来末長く守るべきところであります。津波避難所としてです。どうか３ｍ～５ｍ、一部は10m程の高さに嵩上げして頂きたいと思います。 （70歳代　男性）
2	防潮堤から最寄りの避難場所に避難できるブリッジを適所に設置する。野原地区や野中地区に、それぞれ1か所避難タワーを建設する。　（60歳代　男性）

■道路について

①	国道45号を防潮堤と同じ高さで海側に整備し防潮堤に厚みを持たせる。　（40歳代　男性）
②	国道45号線は安全な高さにするか別ルートで整備すべき。　（50歳代　女性）
3	避難後の孤立を防ぐため、避難場所から避難施設へ速やかに移動するための連絡道路（防災避難コリドール）を建設する。　（大平地区意見）
4	季節や昼夜に拘わらず、速やかに避難できるよう、避難場所への最短コースとし、スロープ、階段、道路巾及び照明の構造や機能を整えると共に、避難弱者を念頭に車椅子や担架及び自動車での避難が可能な道路を建設する。　（大平地区意見）

■現地再建

①	もとの所に住みたい。他に土地がないから。津波前のように、一日も早く町並びになってきれいな地区となることを願うばかりです。　（70歳代　男性）

■浸水した地区の活用

①	旧防潮堤内の地区は多少の土盛りを行い、水害に強い地区にする。野中地区はスポーツ複合エリアとし、立体駐車場を建て一時避難場所とする。防潮堤には陸間を無くし、スロープでの往来とする。　（50歳代　男性）
②	市としては、旧市街地の安全をどのようにして確保するか or どのように活用すべきと考えるか or 住居としての可能性はいかに。　（60歳代　男性）
③	田老の津波被害を受けたところは遠い将来に渡り津波被害危険区域と定め続け、その地で働かなければならない方のために近くの高い山への避難道を欠くことなく完全に整備保存しなければなりません。　（70歳代　男性）

4	野原地区及び野中地区は非可住地にし、電子金型産業、自動車部品産業、水産加工業、林産業等を集積。但し、建物は鉄筋コンクリートとし、1階部分は車庫等にする。（大平地区意見）
5	商業施設→　三鉄田老駅前地区全体を国道の高さまで嵩上げをして商業地区として整備する。（大平地区意見）
6	国道45号の山側、二線堤と国道45号の間は、現在存在する住宅を除き非可住地に指定する。嵩上げをせず非可住地とし、津波の侵入を前提とした土地利用方法が合理的に思える。（60歳代　男性）

■施設について

1	総合事務所→　現在の場所とし、事務所敷地の高さまで駐車場を嵩上げする。（大平地区意見）
2	役場、お寺の場所を強化。中学校の移転も。（勉強会）
3	全ての屋外運動施設は防潮林の跡地に建設する。（大平地区意見）

■地区別の方針について

1	乙部地区、青砂里地区の平地は非可住地、後背地および山頂部分は造成して住宅地にする。後背地全体を「ひな壇型住宅地」及び「高台住宅地」に指定し、宅地造成を行う。（60歳代　男性）